



Yeezy (イージー) ご紹介

ここ2年間で最もホットで話題のスニーカーといえば、[Yeezy](#) (イージー)、通称「ココナッツ」である。このブランドは、カニエ・ウェストのレーベルの中でも、音楽以外で最も広く知られているレーベルのひとつであり、このブランドによって、カニエ・ウェストは現在のファッション界で最も商業的に成功したスターの一人となった。

ブランド紹介

Yeezy (イージー) はラッパーのカニエ・ウェストが立ち上げた個人ファッションブランド。Yeezyはラッパーのカニエ・ウェストが立ち上げた個人ファッションブランドで、同ブランドの商品には様々なスニーカーがある。2004年、マイケル・ジョーダンが初めて中国を訪れ、彼の名を冠したエア・ジョーダン・シリーズのスニーカーを中国に持ち込んだ。その後、ナイキバスケットボールシューズの他のシリーズやファッションナブルな靴の文化が続いた。

[Adidas Yeezy](#)シリーズは、アディダスとアメリカの有名ラッパー、カニエが共同デザインしたアディダスのブランドで、スポーツシューズ市場はますますナイキに支配されつつある状況で、ココナッツはアディダスが世界の半分を占めることを確実にするために、アディダスのもう一つの伝説を作ったと言えます。ココナッツの名前の由来は、その英語名yeezy訳のため、ココナッツは覚えやすいので、そう呼ばれています。

イージーとは？

YEEZYとは？ココナッツって何だか知ってる？もちろん、私たちが食べる果物のことではなく、シューズのことだ。この「ココナッツ」シューズは、世界的に有名なドイツのスポーツブランド、アディダス (adidas) のもので、正式名称は「adidas YEEZY BOOST」。この超話題のスニーカー・シリーズのデザインは、デザイナーのカニエ・ウェストによるものだ。

イージー歴史

YEEZY BOOSTは2009年に初めて発売され、すぐに話題となり、主な理由は、ナイキとカニエ-ウエストの協力、絶対に画期的な協力、カニエ-ウエストと相まって非常に人気があり、スムーズにこの靴のペアの発売後、追求するスターを取得し、例えば：韓国の"若い肉"鹿の櫛、米国の有名人キム-カーダシアンも"ゲスト"であり、さらに文化部門は、新世界副会長鄭Zhigang仕事で強い地位を持っているか、または多くの公的活動に出席しているそれを着ている、これは、波の靴の世界でYEEZYが並外れた影響力のステータスを示しています。"新世界の副会長で、文化部門で重要な地位を占めている鄭志功氏でさえ、仕事や多くの公的活動に出席する際にこの靴を履いており、これはスポーツシューズの世界におけるYEEZYの地位が並外れたものであることを示している。

それから3年後、Yeezyはそのユニークなデザインコンセプトを引き継ぎ、ナイキ エア イージー 2を発表した。ハイトップ、レースアップ、発光アウトソールのデザインはそのままに、ディテールはより豪華になり、シューズ本体のエンボス模様は蛇の鱗に変更され、エジプト文明の模様が使われ、足首の山頂の形はナイル川をモチーフにしているなど、カニエがこのシューズのデザインにどれだけ力を入れているかがよくわかる。このことから、カニエがいかにこのシューズに力を注いでいたかがわかり、市場では強い反響があった。しかし、2013年、レッド・オコターカラーの発売後、カニエとナイキはコラボレーションをめぐる意見が対立し、最終的に2人はコラボレーションを中止することを決めた。

それから3年後、Yeezyはそのユニークなデザインコンセプトを引き継ぎ、ナイキ エア イージー 2を発表した。ハイトップ、レースアップ、発光アウトソールのデザインはそのままに、ディテールはより豪華になり、シューズ本体のエンボス模様は蛇の鱗に変更され、エジプト文明の模様が使われ、足首の山頂の形はナイル川をモチーフにしているなど、カニエがこのシューズのデザインにどれだけ力を入れているかがよくわかる。このことから、カニエがいかにこのシューズに力を注いでいたかがわかり、市場では強い反響があった。しかし、2013年、レッド・オコターカラーの発売後、カニエとナイキはコラボレーションをめぐる意見が対立し、最終的に2人はコラボレーションを中止することを決めた。

2017年まで、YEEZY BOOSTはYEEZYのカラバサスコレクションを発表し、驚きを生み出し続けている。その名も「YEEZY Powerphase Calabasas」。adidasのクラシックでレトロなテニスシューズ、Powerphaseをモデルにしており、通常のYEEZY BOOSTとは全く異なる、2種類のスタイルを提示している。YEEZY BOOSTのスタイルは、通常のYEEZY

BOOSTとは大きく異なり、2種類のスタイルを提示している。同時に、YEEZY BOOST 350 V2'の新色も同時に発売され、蛍光イエロー、ライトブルー、グレーの新色も大人気で、セレブやスターがこぞって愛用する "マストハブ" な一足となっている。

イージーのデザイナーは誰？

アメリカの有名なラッパー、音楽プロデューサー、実業家であるカニエ・ウェスト (Kanye West) は、グラミー賞を21部門も総なめにし、アメリカの音楽・文化の分野での影響力は自他ともに認めるどころだが、もちろん音楽・文化の分野だけでなく、カルチャー界のトレンドにおける影響力も揺るぎない。アメリカのストリート・カルチャー、スニーカー・カルチャー、ラップ・カルチャーは、決して切り離すことのできないテーマのように思えるが、この複雑な関係を最大限に引き出しているのが、有名なヒップホップ・ミュージシャンであり、ポップ・アイコンであり、「世界的KOL」であるカニエ・ウェストであり、どこからともなく現れ、ますます激しさを増す世界的な「靴」ブームを巻き起こした「ファッション・カルトの野獣」である。靴ラッシュ」のグローバル化はますます激しくなっている。

Yeezy 全種類

Yeezy 350

[Yeezy 350](#)のV1とV2バージョンは、どちらも通気性が高く夏でも蒸れにくいニットアッパーを採用し、キャンバス地のヒールリフトは350の特徴のひとつとなっている。V1とV2の最大の違いは、アッパーのニットパターンで、V1のものより硬く、トゥキャップの幅も異なる。

現在発売中の350はすべてV2バージョンなので、以下はV2モデルに焦点を当てる！ V1に比べ、V2はつま先、アーチ、テールがより流線型にデザインされ、母指球のブーストソールが広がっている。私は冗談でこれをアヒルの肉球の形と呼んでいるが、最初は不格好だが、足に乗せると見栄えが良く、そこにカニエのデザインの魅力があるのだろう！

Yeezy 350 V2は人気スニーカーといっても過言ではなく、これまでに20以上のカラーウェイがリリースされ（数えきれない）、そのうちのいくつかは複数回リリースされており、トリプルホワイトのように、昨年100万足を売り上げたカラーのように、リリースされるたびに徐々にその量を増やしており、まさにカニエの目標である「一足分のYeezyのマンパワー」を踏襲している。トリプルホワイトは、リリースされるたびに徐々に数を増やしている。

Yeezy 380

[Yeezy 380](#) "Alien"が最初に公開されたとき、それはかつてYeezy Boost 350 V3シリーズと呼ばれていた。実際、シューズの形状から、Yeezy Boost 350 V2のディテールを踏襲しつつも、これまでのスタイルを覆す新たなアップグレードを施したこのシューズには、多くのデザインスタイルが存在することが感じられる。

見たところ、このシューズはYeezyラインの丸みを帯びたシルエットからほとんど逸脱している。

シューズのラインはすっきりと硬質で、ミッドソールは角ばっている。シューズのつま先はわずかに盛り上がり、ヒールはシャープに仕上がっている。このシューズは、内側も外側も、一味違ったストリートスタイルを見せてくれる。サイドベントはアッパーのパターンと似た形だが、幅が広く、サイドにレースアップを可能にする不規則な穴がいくつも開いている。

Yeezy Boost 350 V2とは異なり、このシューズは内側にサイドベントもある。ただし、内側は不透明なPrimeknit素材でできている。シューズの内側と外側の両方がデザインされているため、夏でも涼しく履けるだろう。全体的に、このシューズはYeezyの伝統的なデザインを継承しつつ、新しいディテールをふんだんに取り入れ、カラーバリエーションと質感はとても良い。

Yeezy 450

[YEEZY 450](#)は、ドイツで生産される初のYEEZYシューズで、ユニークなデザイン言語と高度な製造技術を駆使した業界をリードするイノベーションが特徴。一体型のPrimeknitアッパーと包み込むようなソックライナーが、素晴らしい履き心地を提供する。軽量のPU素材をホワイトのアウトソールに注入することで、高い反発性とクッション性を実現し、ユニークで革新的な美意識を示している。

Yeezy 450のデザインは、他のコレクションよりもユニークで、誇張されたキールのアウトソールが目を引く。また、新作Yeezy 450は初めてドイツ製となるため、品質面でも安心できる。

Yeezy 500

その通り、ブーストなしのYeezyだ！ブーストなしのYeezyである[Yeey 500](#)は、アディプレンテクノロジーを搭載している。要するに、クッション性もある柔軟なラバーソールで、ブーストソールより少し硬めだが、それでも履き心地は抜群だ。また、レトロなお父さんシューズとして、500の配色はいつものワンカラーで、異素材のパッチワーク、特にアッパーに埋め込まれた3mの反射素材がシューズ全体のレイヤーを際立たせ、お父さんシューズのイメージの伝統的なコンセプトに沿ったものとなっている。

足を入れてみるとわかるが、500のアッパーはまだ比較的緩く、包み込むような感じは700に比べると弱く、適度な弾力性を調整しないと、長く履いているうちに足をすり減らしてしまうことにつながる！今のところ500は6色発売されているが、デザイン自体が単色の靴なので、新モデルが出るたびに色が変わるだけで、人々の誠意が感じられない。

パレットにカニエの手が入っているようなもので、ほとんど見分けがつかない色もあり、あからさまな金目当てではないかと思わせる！私としては、yeezyが発表するシューズの全色を買いたいところだが、500の場合は、足になじんで身長を伸ばす効果はあるものの、1足で十分だというのが私のアドバイスだ！

Yeezy 700

2017年から、ポップスシューズのトレンドがスニーカー界全体を席卷したが、カニエはその立役者だったと思う。 [Yeezy 700](#)の最初のカラーウェイ、ウェーブランナーが再びトレンド界に火をつけた後、すべての主要ブランドが競ってポップスシューズの独自バージョンを発表した。

この700のカラーリングは、イージーの中でも最も「ファンシー」なもので、素材面ではメッシュ、スエード、3mリフレクティブといった異素材のスプライシングを採用し、色合わせではV1、V2に計10色のシューズが登場するなど、ヴィンテージとアヴァンギャルドを巧みに融合させた一足となっている。予想通り、このシューズは発売されるやいなや市場から高い注目を集め、一時は高値が予想された。それから半年後、再入荷されたこのカラーリングを私は手に入れた。

700sはさらに2色、深い紫のMauveとグレーのStaticが出た。MauveはWave Runnerのカラーブロックのコンセプトに似ていて、色は深みがあるが、靴本体はWave Runnerより少し薄いので、Wave Runnerのような履き心地は感じられない。18年末に出たStaticはV2のバージョンで、形は基本的に変わっていない。18年末に発売されたスタティックはV2バージョンで、靴型は基本的に変わらず、グレーの配色は前2モデルに比べて前衛的でなく、オールドパパシューズの伝統的な良さを薄型で復活させたものだが、3Mの反射ストライプが実にセクシーすぎる！スタティックは大量に販売されないため、その市場価格も前2モデルの700より高い。

Yeezy 750

2016年の初代750には暗闇で光るアウトソールが搭載されていたが、あいにく不景気で夏は750を履くのに適していなかった。つまり、ルミナス750の登場は最初から悲劇だったのだ。750が失われたのはおそらく必然で、グレーのルミナス・アウトソールがたまたまタイミングよくそこにあっただけなのだ。

Yeezy 拖鞋

YEEZYが下火になったかどうか議論されている最中、KANYE WESTがスリッパ軍団を率いてファッション界を席巻している！ [YEEZY SLIDE](#)の発売以来、大きな注目を集めているadidas + KANYE WESTは、夏の猛攻とともに3つの新色、PureとResin、そしてスマートでシンプルなルックスと履きやすさで、ファッション界の新たなトレンドとなっている目を引く新色、Enflame Orangeをリリース。洗練されたシンプルなルックスと履きやすさで、このシューズは再びファッション界を席巻した！

YEEZY SLIDEのシューズ本体は、軽量化と耐久性を高めるために一体成型のEVAフォーム素材を使用し、履き心地を提供するために柔らかい表層のアッパー、優れた反発性とグリップ力を提供するユニークなノコギリ溝デザインのソール。YEEZY SLIDEは快適で、自宅と外出の両方の特性にマッチしやすい使用するのに非常に適しており、スリッパでも投機価格の数万することができ、私は唯一のケニア人の言うことができます。Yeezy人気商品が新入荷があり、[Yeezy公式サイト](#)サイトをご注目ください！